

平成30年度 宇多津町社会福祉協議会事業報告

1. 概 況

社会的構造の変化（少子高齢化・変化する家族のあり方・地域間の関係希薄化による社会的孤立・経済的困窮の増加）が深刻化する現在、「地域福祉の推進を図ることを目的」とする社会福祉協議会として、地域の全ての人々が支え手側、受け手側に分かれることなく互いに支え合う「地域共生社会」の実現を図り、誰もが安心して安全に暮らすことのできる社会づくりを目指し、充実安定した各種地域福祉事業の推進に努めた。特に今年度は、生活支援体制整備事業において、みんなでがん体操やふれあいいきいきサロンの活動先に出向いて、支え合いや助け合いのある地域づくりについて説明を行った。また、モデル地区とした平山自治会で、アンケート調査を実施してニーズを把握し、地域の実情に合った支え合いのしくみとして立ち上げた「平山お助け隊」が、助け合い活動を開始した。続いて、「地域共生社会」の実現の大切さや必要性について「地域支え合い活動実践報告会」を開催して約150名の住民の参加を得、活動の周知を図った。

地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業（地域力強化推進事業）としてアウトリーチ機能の強化を図るため、香川おもいやりネットワーク事業を活用した「福祉まるごと相談窓口」として、社会福祉法人の町内施設3施設及びあみのうら交流センター（社協事務室）及び社協拠点の陽だまりに相談窓口を開設するほか、「巡回型福祉まるごと相談」として、民生委員・児童委員、施設法人及び社協が3人一組で、町内の居場所やスーパーやコンビニ、公園等巡回し、困りごとをキャッチする取り組みを行った。また、社協の拠点を活用し、休けい所「陽だまり」を居場所として開放したが、この参加者の中から特技を生かした「絵手紙」教室を別の日に開設し、毎月一回定期開催できるようになり、徐々にではあるが住民主体の運営が確立し、孤立しがちな高齢者等が「今日行く」場所を創生しつつあり、様々な支え合いが実現している。

今後は、地域の実情に合った支え合いのしくみづくりを具体的に行っていき、住民主体の新しい地域づくりを推進して行きたい。

平成30年度は、社協事務局において職員3名の退職者を出し、事務局組織に打撃を与える事態となり、誠に遺憾であり、新年度のスタートにあたり速やかに欠員職員の補充を図り、早期に事務局体制を確立し、宇多津町の地域福祉の推進・拡充に寄与して行きたい。

平成30年度事業等の細部は、次の9項目を重点に実施した。

- (1) 地域福祉活動の推進
- (2) 介護保険事業の充実

- (3) 障害者自立支援事業の充実
- (4) 生活困窮者自立相談支援事業の推進
- (5) ボランティア活動の推進
- (6) 福祉関係団体等活動協力と連携
- (7) 法人運営の強化
- (8) 権利擁護の推進
- (9) その他福祉活動への協力

2. 事業経過報告

(1) 地域福祉活動の推進

① ふれあいいいききサロンの推進


町内の高齢者や障害者等、地域の中で孤立して閉じこもりぎみに暮らしている人たちが、いきいきと元気に暮らせることを目的としてサロン活動を行った。年度毎の箇所数は次のとおりであり、30年度は5箇所増である。サロン代表者の後継適任者不足が今後の課題となった。

年 度	箇所数
平成26年度	23
平成27年度	27
平成28年度	29
平成29年度	28
平成30年度	33

また、年4回のプログラムメニュー研修会を実施し、各サロンのより魅力的運営に寄与した。

研修会名	実施日	参加者数
－笑いヨガで笑顔に－ －元気体操で健康に－	平成30年5月23日(水)	30人
懐かしい昭和の歌謡を歌いましょう！	平成30年9月19日(水)	88人
SOS！災害時に自分ができること！	平成30年12月14日(金)	36人
「くぼさんのとうふ」を使って 豆乳ぜんざいと豆腐白玉を作ろう	平成31年2月13日(水)	37人

② 共生型サロンの推進

前年度に引き続き、毎月第1・第3水曜日、地域で暮らす高齢の方も、子育て中の親子も、障がいのある方も、誰もが自由に集い交流できるみんなのサロン「とも  とも」の活動を行なってきた。

5月から世代間交流センターが開館され、「とも・とも」の開設場所をやすらぎプラザからあみのうら交流センターに移し、リニューアルして活動し、参加人数が増えた。季節行事（流しソーメンと盆踊り）では、卒園していった大勢の子どもたちの参加があり、交流を深めることができた。しかし、近年の傾向として季節行事の時には親子の参加が多いものの、行事がない日の親子の参加が少なかったが、徐々に定着し、親子の参加も増えてつつある。また、高齢者の参加人数も増え、子どもたちとの交流もできている。

【みんなのサロン 参加人数】 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
親	0	3	8	10	51	9	11	8	22	10	3	15
子ども	0	3	9	10	90	10	12	8	25	11	3	21
高齢者	17	15	18	20	28	16	17	16	30	10	19	16
VO・スタッフ	4	3	11	7	21	27	6	6	16	2	6	7
合計	21	24	46	47	190	62	46	38	93	33	31	59

③ 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業（地域力強化推進事業）

（1 概況で詳述した。）

④ 各種相談事業の実施

民生児童委員会、弁護士及び身体障害者相談員の協力を得ながら次の6種類の相談事業を実施した。

相談の種類	相談員	相談日	相談実績
一般相談	民生児童委員	毎週火曜日	1件
弁護士相談	弁護士 安西 敦	2カ月に1回	26件
身体障害者相談	県身体障害者相談員	第3金曜日	0件
介護相談	介護支援専門員 訪問介護員	月曜日～金曜日	384件
ボランティア相談	ボランティアコーディネーター	月曜日～金曜日	24件
電話相談	社協事務局	月曜日～金曜日	406件

介護相談や電話相談が増加している。また、ボランティア相談の件数も増加

し、ボランティア活動（老人配食の配達、ファミサポ、子ども食堂等）への参加につながっている。

⑤ 生活福祉資金の効果的運用

県社協の委託事業として、生活福祉資金の貸し付け事業を実施したが、新規借入件数は昨年度に比し、減少している。資金ごとの貸し出し状況は次のとおりである。

〈生活福祉資金貸付事業〉

借入資金の種類	年度末 件数	30年度中 新規借入件数	29年度中 新規借入件数
総合支援資金	18	0件	0件
緊急小口資金	19	7件	8件
臨時特例つなぎ資金	0	0件	0件
教育支援資金	12	1件	3件
福祉資金	8	1件	0件
不動産担保型生活資金	0	0件	0件
国民年金の任意加入を含む年金の貸付	0	0件	0件
計	57	9件	11件

⑥ 日常生活自立支援事業の実施

県社協の委託事業として、高齢者や知的・精神障害者で判断能力に不安がある人を対象に金銭管理・福祉サービスの手伝いを行う日常生活自立支援事業を実施した。年度ごとの利用者状況は次のとおりである。

年 度	高齢者	知的障害	精神障害	その他	計
平成26年度	10	1	11	1	23
平成27年度	17	6	15	1	39
平成28年度	19	5	14	1	39
平成29年度	33	4	11	1	49
平成30年度	25	4	12	1	42

施設への入所や死亡等により、利用者が前年度から減少した。判断能力の低下等により、日常生活自立支援事業から成年後見制度への移行を親族等と相談の上、どのように進めていくかが課題である。

⑦ 高齢者福祉サービス事業の充実

在宅の高齢者及び障害者の日常生活や自立に向けた取り組みを支援するために次の事業を実施した。老人配食サービスについては、配食していただくボランティアの募集など、当日の配食に支障のないように努めた。

〈老人配食サービス〉

区 分	老人配食サービス事業	車椅子貸出事業	「陽だまり」お風呂	うたんぐら
平成 26 年度	5,096 食（117 名）	40 件		2 名
平成 27 年度	4,919 食（131 名）	39 件		2 名
平成 28 年度	5,124 食（114 名）	48 件	5 名	
平成 29 年度	4,800 食（122 名）	42 件	7 名	
平成 30 年度	5,515 食（132 名）	36 件	9 名	
備 考	毎週水曜日配食 （月 4 回）		# 1 : (月) (水) (金) # 2 : (火) (木) (土)	毎週 3 回 月・水・金

また、共同募金の助成金により、高齢者見舞金配布事業を実施し、80 歳以上の一人暮らし高齢者に対し、3 千円を民生児童委員の協力により配布した。

〈高齢者見舞金事業対象者〉

区 分	一人暮らし老人 (80 歳 以上)
平成 26 年度	155 名
平成 27 年度	181 名
平成 28 年度	179 名
平成 29 年度	188 名
平成 30 年度	203 名

⑧ ファミリー・サポート・センター事業

（地域の方が会員となって、一時的な子育てを助け合う有償ボランティア組織）
（平成 30 年度登録会員数、活動件数、援助活動内容と件数の内訳）

登録会員数 (平成30年4月～平成31年3月末)	おねがい会員	246名	合 計 397名
	まかせて会員	109名	
	どっちも会員	42名	
活動実績 (平成30年4月～平成31年3月末)	援助活動件数の内訳		活動件数
	①	保育施設等への送迎とその前後の預かり	301件
	①	児童クラブへの送迎とその前後の預かり	182件
	①	子供の習い事等への送迎	118件
	①	自宅・祖父母宅への送迎	93件
	①	保護者等のリフレッシュのための援助	70件
	①	児童デイへの送迎とその前後の預かり	60件
	①	保護者等の病気・通院のための援助	11件
	①	その他	19件
	合 計		854件

昨年度に比べて活動件数は減っているが、活動時間数は件数の減少に比べてそう大きくはないことが伺えるため、保育施設等が休みの際の預かり等、1件の預かり時間数が増えている。今後もまかせて・どっちも会員の研修時間数が厚生労働省の推奨する研修時間数に近づくよう、会員に講座の受講を促すとともに、預かり時の事故防止等について、引き続き講習会を実施していきたい。

(平成30年度研修会、交流会回数と内容)

	回 数	参加人数	内 容
研修会	4回	72名	養成講座3回(坂出合同)・会員ミーティング1回
交流会	6回	386名	とも・とも合同交流会・ファミサポ交流会など
講演会	1回	35名	坂出合同

⑨ 地域支え合い推進(生活支援体制整備事業)

平成29年4月に協議体(地域支え合い「陽だまり うたづ」)を設置し、生活支援コーディネーターとともに、ちょっとした生活のお困りごとが、住民同士の支え合いや助け合いで解決できるように、協議体(地域支え合い「陽だまり うたづ」)を9回開催した。

今年度は、住民に「なぜ地域での支え合いが大切なのか」を周知するために地域支え合い活動実践報告会を開催し、約150名の参加があった。これをきっかけに、身近な地域での助け合いが少しずつ広がっていくことを期待している。

⑩ 子どもの未来応援事業の推進

子ども食堂運営事業「陽だまり食堂」として毎月1回開催し、「地域で子どもに関心を持つ人や、見守る人の目を増やすこと、家庭・学校以外の子どもの居場所をつくり、子どもを一人にさせないこと、子どもが様々な大人と関わる機会・体験を増やすこと」を目指した。参加費はおとな300円、こども100円で、参加者数

の実績については次のとおりである。

(平成30年度子ども食堂運営事業 参加者数実績)

開催月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
子ども	22人	21人	23人	14人	10人	15人	14人	19人	13人	18人	11人
おとな	8人	4人	4人	7人	3人	3人	5人	4人	3人	5人	2人
ボランティア	10人	11人	10人	17人	5人	8人	10人	10人	7人	8人	8人

また食事の提供に加え、季節ごとのイベントや食に関するワークショップにも取り組み、子どもたちへ様々な体験をしてもらいながら、関係づくりに努めている。また食材については町内企業や寄付者から多数の支援をいただいた。

次年度は、参加者や保護者にもアンケート調査を実施し、ニーズを把握するとともに、ボランティアや関係機関との話し合いを持ち、今後の陽だまり食堂の運営について協議し、さらなる充実を図っていきたい。

⑪ うたづっこ育児用品レンタル・サポート事業の推進

宇多津町の未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援し、保護者の経済的負担を軽減することを目的に、チャイルドシート・ジュニアシート・ベビーカーのレンタル事業を行っている。

(平成30年度 育児用品保有数と利用数)

	購入台数	寄付台数	合計保有数	返却数	貸出件数	在庫(年度末)
チャイルドシート	66台	15台	81台	32台	113件	0台
ジュニアシート	10台	4台	14台	6台	16件	4台
ベビーカー	32台	12台	44台	25台	65件	4台

町で母子健康手帳交付時にこの事業のチラシを配布していることもあり、利用者が少しずつ増えている。また、アンケートでも満足度が高く、経済的にも助かっているという声が多く聞かれる。今後も、この事業が円滑に進むよう家庭で不要になった育児用品の寄付を広報等で協力依頼していきたい。

(2) 介護保険事業の充実

① 訪問介護事業(ホームヘルパー)の充実

利用者の体調不良による入院や施設入所など介護度の高い人の利用減少が続いているのと、総合支援事業利用者の増加に伴い、昨年と同様、収入が9.1%減になっている。また、総合支援事業の増加に伴い今後は、一層のサービス向上と利用者の増加を図っていかなければならないが、それには高齢化する登録ヘルパーの退職に対応する人員及び事業拡大が図れる人材確保の継続が必須である。

(単位：千円・人数)

年 度	訪問介護事業収入	前年比	延べ人数	軽度生活支援事業収入
平成 26 年 度	9,957	2,6%	380	1,195
平成 27 年 度	12,200	22.5%	421	1,028
平成 28 年 度	11,835	▲3.0%	415	636
平成 29 年 度	9,548	▲19.4%	351	606
平成 30 年 度	8,677	▲9.1%	329	426

② 居宅介護支援事業の充実

居宅介護支援事業の利用者及び事業収入の推移は次のとおりである。延人数は、7.9%増であるが、事業収入は前年度比2.3%減となり、利用者数は増加しているものの収益が増加していないのは、平成29年度は、要支援者数153名（収益：627千円）、要介護者数は、601名（収益：6,498千円）で、平成30年度は、要支援者数263名（収益：1,020千円）、要介護者数は、551名（収益：5,940千円）であり、利用者の介護度が下がり、要介護者の平均単価の低下と要介護から要支援へ変更になった利用者が増加したためである。

今後は、認定が軽い利用者が更に増加し収益が下がると予想されるが、特定事業所加算Ⅲ（常勤3名 etc）の取得を追求する等の対応策を講じていきたい。

（単位：千円・人数）

年 度	事業収入	前年比	対象者数(延人)
平成 26 年度	5,086	▲15.4%	567
平成 27 年度	5,971	17.4%	647
平成 28 年度	6,380	6.8%	720
平成 29 年度	7,125	11.6%	754
平成 30 年度	6,960	▲2.3%	814

③ 通所型サービスA事業所の充実

利用者は5名であり、火曜日2名・木曜日3名の対応で利用者には好評を得て行っている。事業収入の細部については、昨年度387,200円から、今年度689,400円に増収した。今後、円滑な運営を目指すとともに更なる利用者増を目指し、地域包括支援センターとの連携を強め、本サービスの充実発展を期していく。

(3) 障害者自立支援事業の充実

① 障害者福祉サービスの充実

居宅介護及び移動支援について今年度は入所や入院及び同行援護については、平成29年12月以降、利用者が施設入所したため該当がいなくなる等のため減少となった。引き続き、減少傾向が続いているが、これは障害者保険から介護保険への移行及び利用者の入所や入院が影響していると考えられる。今後、訪問介護と同様に事業拡大の為、登録ヘルパーの人材確保の継続が必須である。各年度のサービスごとの収入の結果は、次のとおりである。

(単位：千円)

年 度	居宅介護	移動支援	同行援護	難病患者等	計
平成 26 年度	1,906	675	30		2,611
平成 27 年度	1,421	301	431		2,031
平成 28 年度	1,569	395	683		2,647
平成 29 年度	1,149	220	471		1,840
平成 30 年度	1,008	230	0		1,238

(4) 生活困窮者自立相談支援事業の推進

① 包括的かつ継続的な相談支援

生活困窮に関する課題は、経済的な問題のみならず社会的な孤立や医療問題、DV、障害者などが折り重なって、複合的な問題を抱えており、本人だけでなく世帯全体が困窮しているため、世帯全体を支援していくように取り組んでいる。相談実績は以下の通りである。

	年間合計 (人)	男性	女性	～ 10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳 以上
30年度相談 件数(内訳)	23 (不明2名 含む)	14	9	1	2	4	9	3	1	3

② 生活困窮者支援を通じた地域づくり

生活困窮については、怠惰な生活を続けている人たちばかりでなく、本人の意志等に反し、突然社会や制度の狭間に落ちてしまう事もあり、福祉教育や個別支援を通じて理解者を地域に増やしていく事で、支え合いの輪を拡げて、誰もが住み易く、排除しない地域を構築又は創造していくことが重要である。支える側や支えられる側というように分けるのではなく、お互いが支え合えるような地域づくりが求められている。

③ 香川おもいやりネットワーク事業の推進

社会福祉協議会が社会福祉法人施設や民生委員・児童委員と繋がり、支援を必要とする方を「地域でトータルにサポートする仕組み」をつくり、「香川型福祉でまちづくり」を目指し、下記の会議を開催した。

〈 香川おもいやりネットワーク事業 宇多津担当者会 開催状況〉

開催日	場 所	会議内容	参加者
4 / 2 5	あみのうら 交流センター	(1) 福祉まると相談窓口&巡回型福祉まると相談(案)について (2) 各担当者間意見交換	民生委員・児童委員 寿楽荘、いきいき荘 マイルドハート21 エコランド鶴多津
7 / 2 7	あみのうら 交流センター	(1) 域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業について (2) 巡回型福祉まると相談(案)について	民生委員・児童委員 寿楽荘、いきいき荘 マイルドハート21 エコランド鶴多津
1 0 / 2 2	あみのうら 交流センター	(1) 地域力強化における居場所づくりについて (2) 福祉まると相談窓口&巡回型福祉まると相談について	民生委員・児童委員 寿楽荘、いきいき荘 マイルドハート21 エコランド鶴多津
1 / 2 1	あみのうら 交流センター	(1) 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業について (2) 福祉まると相談窓口&巡回型福祉まると相談について	民生委員・児童委員 寿楽荘、いきいき荘 マイルドハート21 エコランド鶴多津

(5) ボランティア活動の推進

① ボランティア連絡協議会への参加及び協力

事務局として、毎月の定例会、総会及び研修会等に積極的に参加し、ボランティア活動を推進した。坂出青年会議所と連携し、顔の見える関係づくりを行った。加入団体は、25団体となっている。

② 福祉・ボランティア体験の推進

福祉・ボランティア体験として「うたづっこふくしセミナー」の開催、「ボランティア体験」の実施、「福祉体験学習」、「ボランティア銀行」の運営を次のとおり実施した。

a うたづっこふくしセミナー

	開催日	場 所	体 験 内 容	参 加 人 数
第14回	7 / 2 1	保健センター	中学生位までの児童・生徒を対象とした福祉体験セミナー	約300名

b 宇多津北小学校福祉体験学習会

開催日	場 所	体 験 内 容	参 加 人 数
10 / 1 1	北小学校体育館	車いす体験 視覚障害者疑似体験	4年生全員 110名

C 夏休み中学生ボランティア体験学習

21の行事が延べ41日間行われ、535人がボランティアとして参加した。町や社協事業以外にも各種団体のボランティアにも参加している。今後も学校と連携を取りながらボランティア活動を推進していく。

	開催日	場 所 等	学 習 内 容	参加人数
1	7 / 2 3 他1回	JR 駅前清掃	駅前清掃ボランティア体験	192名
2	7 / 2 5 他3回	福祉センター	老人配食給食配達ボランティア体験	10名
3	7 / 2 3 他1回	県道33号線	さわやかロード清掃活動	24名
4	7 / 2 4	サポートセンター	はぐはぐランド宇多津での乳幼児との交流体験	12名
5	7 / 2 7	NPO メロディー	障がい児と交流	3名

6	8 / 1	やすらぎプラザ	みんなのサロンとともに 高齢者・乳幼児との交流	7 名
7	7 / 2 3 他 1 回	宇中美術室	高齢者のために絵手紙づくり	4 0 名
8	7 / 2 4 他 2 回	ユープラザ他	夏休み宿題お助け隊	1 8 名
9	8 / 2 8 他 3 回	宇夫階神社他	うたづ寺子屋ボランティア	2 5 名
1 0	7 / 2 1	保健センター	うたづっこふくしセミナー	4 5 名
1 1	8 / 1 7	ドリームパラダイ ス	うどん作りの手伝い	1 3 名
1 2	8 / 1 9	社会福祉協議会	日曜サロン・日曜市の手伝い	8 名
1 3	8 / 2 9	ファミリーサポートセンター	親子クッキングの手伝い	6 名
1 4	8 / 2 8 他 1 回	ユープラザうたづ	ピッコロ ECCO ショー	1 7 名
1 5	8 / 2 5	寿楽荘	高齢者との交流	3 名
1 6	8 / 2 1 他 2 回	いきいき荘	高齢者の話し相手	6 名
1 7	7 / 2 6	中学校	エコキャップの仕分け	5 0 名
1 8	7/23～ 8/31	中学校	校内プランタンの水やり	4 4 名
1 9	8 / 7	陽だまりデイサ ービス	高齢者の話し相手	2 名
2 0	7 / 2 3 他 2 回	傾聴ボランティア	お茶会	6 名
2 1	7 / 3 1 他 1 回	陽だまり食堂	子ども食堂のお手伝い	4 名

延べ：4 1 日

延べ：5 3 5 名

d 勇心酒造㈱ボランティア銀行の運営

ボランティア銀行事業の取組みが全社協の広報誌「ノーマ」や、全国の教員向

けの広報誌「階」に掲載され、石川県加賀市の民生委員・児童委員、福岡県都町の町議会議員の方が研修に来町された。

(a) ハート数の推移

平成30年度のボランティア銀行の預金額は、908,558 ハートとなり、これまでの推移は以下のとおりである。

年 度	ハート数
26年度	883,463
27年度	988,506
28年度	1,165,477
29年度	934,606
30年度	908,558

また、各学校のハート数は以下のとおりである。

学校名	平成29年度(ハート)	平成30年度(ハート)
宇多津小学校	386,167	228,523
宇多津北小学校	346,989	440,735
宇多津中学校	201,450	239,300
合 計	934,606	908,558

(b) ボランティアハートの贈呈先一覧

学校名	贈呈先	贈呈品
宇多津小学校	特別養護老人ホーム寿楽荘	CD ラジオ・ラジオ体操 CD
	親子クラブ「わくわく」	障がいのある子どもの学習用品
	やすらぎプラザ・ユープラザうたづ	牛乳パック椅子
	宇多津町民生委員・児童委員協議会	町外へのPR活動資金
	陽だまり食堂	調理器具
	宇多津町保健福祉課	あみのうら交流センター遊び場のおもちゃ
	愛媛県共同募金会	豪雨災害義援金
	郷照寺	車いす
宇多津北小学校	ライトハート いきいき荘	音楽レクリエーション(本・CD)・ラジカセ
	そんぼの家香川宇多津	レクリエーション用品(思い出しカード)
	有料老人ホーム浜のかぜ	レクリエーション用品(思い出しカード)

	陽だまりデイサービス	脳トレゲーム・体操 DVD・手芸セット
	ユープラザうたづ あみのうら交流センター	ウォーターサーバー設置（熱中症対策）
	愛媛県共同募金会	豪雨災害義援金
	うたづコール・メイ	合唱による生きがい活動資金
宇多津中学校	みんなで咲かそう花の会	活動資金
	すまいるケアセンター	歌謡曲 CD セット
	ケアハウスマイルドハート 2 1	健康体操 DVD
	いきいきサロン	レクリエーション用品
	老人給食配食先の高齢者	ネッククーラー
	みんなのサロン「とも・とも」	活動資金
	愛媛県共同募金会	豪雨災害義援金
	朗読&トークの会	朗読やおしゃべりによる生きがい活動資金

③ 防災研修会の開催

多度津町社会福祉協議会事務局長の藤原安江氏を講師にお招きし、防災研修会を開催した。詳細は次のとおりである。

	開 催 日	場 所	講 演 内 容	参加人数
第 1 回	2 / 9	保健センター	災害ボランティアセンター運営研修会 講師 多度津町社会福祉協議会 事務局長 藤原安江 氏	5 0 名

(6) 福祉関係団体等活動協力と連携

① 民生児童委員協議会との連携

社会福祉協議会の運営において、民生児童委員との連携・協働は重要不可欠であり、相談事業をはじめとして、思いやりネットワーク事業、高齢者・一人暮らし老人の情報の共有、老人配食サービスの配食、高齢者見舞金配布事業、共同募金活動、生活福祉資金貸付業務等において協力を得て事業を実施した。今後は相互の会合及び研修等に積極参加して、より緊密に連携していく。各事業ごとの実績については、他の項目で記載した。

② 老人クラブ連合会・身体障害者協会への参加協力

老人クラブ連合会・身体障害者協会の事務局として、総会・定例会、各種行事への協力及び文書管理を行った。また老人クラブ連合会においては「昔あそびカフェ」の開催、「陽だまり食堂」へのボランティア参加に取り組んだ。昔のお菓子づくりや遊び体験を通して子どもたちと交流を図ると同時に、老人クラブ連合会の活動の活性化、活躍の場の創出に繋げた。

③ 福祉団体への援助

ボランティア連絡協議会加盟の団体へ各種補助金等の提供を行った。

(7) 権利擁護の推進（法人後見事業開始）

認知症高齢者、知的障害者及び精神障害者など意思決定が困難な人の判断能力を補うため、社会福祉協議会が成年後見人等となり、その権利を擁護するための事業であり、平成29年4月より法人後見事業を開始している。今年度は4月に第1回法人後見運営委員会を開催。日常生活自立支援事業利用者において、成年後見制度への移行を検討している事案について、審議を受けた。30年度は、2名が移行している。

(8) 法人運営の強化

① 自主財源の確保

平成26年度と比較すると、香典返し等の一般的風習の退潮等により半減している。自主財源確保のため、香典返し等寄付金の使途の明確化を図る周知・広報に努めていきたい。年度ごとの状況は次のとおりである。

(寄付金の推移)

年 度	香典返し		一般寄付		合計金額
	件 数	金 額	件 数	金 額	
平成26年度	17	350,000	10	453,000	803,000
平成27年度	8	285,000	7	117,000	402,000
平成28年度	11	410,000	10	342,017	752,017
平成29年度	6	220,000	10	179,000	399,000
平成30年度	5	200,000	9	174,480	374,480

(会員数の推移)

会費は、会員の増加に努めたが、会員数はおおむね横ばいであるが、会費合計は昨年度の減となった。これについては、法人会員の減少と口数の減少によるものであり、寄附金対応と同様の施策を講じていきたい。

年 度	社協役員	団体会員	個人会員	法人会員	会費
平成27年度	25名	72団体	222名	67法人	615,100円
	180口	982口	540.5口	365口	
平成28年度	25名	54団体	220名	79法人	620,700円
	170口	770口	506.5口	1,657口	
平成29年度	25名	63団体	209名	78法人	671,100円
	165口	867.5口	549.5口	1,590口	
平成30年度	24名	62団体	203名	72法人	608,364円
	165口	878口	543口	1,420口	

② 広報・啓発活動（情報誌「社協通信」の発行）

社協事業を広く町民に周知する目的で情報誌「社協通信」を毎月発行し町広報と同時に配布した。

③ 各種研修会等への参加

社協職員の資質向上を目指して県社協、県施設協会等の研修会に積極参加した。今後も香川県社会福祉協議会等が開催する研修について、積極的に参加し、専門知識の取得を図っていく。

④ 宇多津町社会福祉協議会は、11月22日全国社会福祉協議会会長表彰を受表彰した。

⑤ 事務局職員の自己啓発状況

a 地域福祉の職員2名（正規及び臨時職員）が、自己啓発により「社会福祉士（国家資格）」資格を取得した。

b 会計職員（臨時職員）が、社会福祉会計簿記認定試験「初級」に合格した。

(9) その他福祉活動への協力

① 共同募金運動への協力

宇多津町共同募金委員会に協力して、街頭募金運動・歳末たすけあいチャリティー即売会等の募金活動に協力し、目標額4,200,000円に対し4,211,790円を集め、県共同募金会に送金した。又、期間拡大による募金活動「宇多津町内小・中学校応援プロジェクト募金」を1月1日から3月31日まで実施し、目標額1,800,000円に対し1,575,441円を集め県共同募金会に送金した。しかしながら14年連続の募金目標額達成は、ならなかった。

本町への助成金は地域福祉推進事業として、2,589,155円、小・中応援プロジェクト事業として1,893,916円であり、以下の事業を実施した。災害見舞金は、愛媛県共同募金会に309,054円、広島県共同募金会に、3,559円を送金した。

○社会福祉協議会事業への助成

番号	事業名	事業内容	助成額
1	ふれあいいきいきサロン事業	ふれあいいきいきサロン活動助成費用（1団体 年間1.2万円～2万円）	300,000円
2	ボランティア活動推進助成事業	ボランティア連絡協議会活動費用 うたづっこふくしセミナー開催費用	239,155円
3	一人暮らし高齢者見舞金配布事業	80歳以上の1人暮らし高齢者のお見舞金費用	450,000円

4	心配ごと相談事業	弁護士相談費用	150,000 円
5	傾聴ボランティア養成事業	傾聴ボランティア養成講座を開催し、傾聴の理念、技法を学ぶ	70,000 円
平成30年度 社会福祉協議会事業 助成額合計			1,209,155 円

○ 各種団体への助成

番号	事業名 / 助成先	事業内容	助成額
1	子育て支援推進事業 (サポートママ「モコモコ」)	核家族化が進む新都市を中心に、地域の人々が交流できるイベントを開催し、交流の場を提供する。	170,000 円
2	身障者外出支援事業 (身体障害者協会)	身体障がい者の外出を支援することにより、社会参加を促し、会員同士の親睦を深める活動。	30,000 円
3	外出支援事業 (老人クラブ連合会)	高齢者の外出を支援することにより社会参加を促し、ひきこもりを防止し、仲間づくりを行う。	30,000 円
4	施設訪問事業 (ゆかいな仲間たち)	町内の福祉施設に訪問し、レクリエーション活動、体験交流活動を行い、高齢者との交流を深める。	30,000 円
5	母子家庭等支援事業 (母子寡婦福祉会)	ハイキング、クリスマス会等を開催することで、ひとり親家庭の親子の絆を深め、就職活動にも結び付ける。	80,000 円
6	子育て支援事業 (あおやま保育園)	ジム・マット購入することで、子ども同士、保護者同士でふれあい、関わり、子育ての輪を広げていく。	180,000 円
7	子育て支援事業 (青山幼稚園)	古くなっている掲示板をスノーピーの掲示板に交換することにより、情報の提供を呼びかける。	160,000 円
8	環境衛生推進事業 (宇多津町婦人会)	町民にゴキブリ団子を配布することにより、衛生管理に対する意識を高め、地域の衛生環境を整える。	140,000 円
9	障害者ふれあいサポート事業 (カノンの会)	就労支援している事業所の見学研修を行い、これからの暮らしについて考え、活動の輪を広げる。	100,000 円

1 0	生活発表会用楽器購入事業 (平山保育園)	ピアノを買い替えることによって、音楽の喜びを感じやすく、練習に熱が入り、発表会への意欲も増す。	100,000 円
1 1	障がい児支援事業 (NPO 法人メロディ)	講演会を開催することによって、これまで知らなかった知識を得ることができ、「共感」が生まれる。	150,000 円
1 2	子育て支援事業 (香川短期大学附属幼稚園)	防災対策について見直し、避難時の必要なものや避難場所の環境の充実を図る。	80,000 円
1 3	手話ボランティア養成事業 (手話サークルにここ)	月に2回手話サークルを開催する。将来は、講演会等で手話通訳ができることを目指す。	30,000 円
1 4	障がい者支援事業 (親子クラブわくわく)	正しく「発達しょうがい」について保護者が学び、よりよい生活を目指す。	20,000 円
1 5	障害者支援事業 (ドリームパラダイス)	お揃いのユニフォームを購入することで、施設の団結力を高め、スポーツ活動に活用する。	80,000 円
平成30年度一般募金助成合計額			1,380,000 円

小・中学校応援プロジェクト募金助成金

番号	事業名 / 助成先	事業内容	助成額
1	あいさつの花を育てて、宇多津の町を花いっぱいにする活動 (宇多津小学校)	あいさつを啓発する植木鉢を作成し、「あいさつの花をさかせよう」を合言葉に、直接児童が地域住民の皆様に植木鉢を持っていき、募金のお礼と、あいさつをひろげようとする気持ちを伝える。	7,225 円
2	保護者用名札ケースの購入事業 (宇多津小学校)	学校行事、イベントにおいて使用する保護者用の名札ケースを購入することにより、保護者間の交流、親睦を深めることができる。	50,775 円
3	自転車を安全に乗るための自転車用交通安全シートの作成・配布事業 (宇多津小学校)	3年生以上の児童に、自転車の左側通行の徹底や交差点を渡るときの注意等をわかりやすくデザインしたゴム製シートを作成し、自転車に装着することで、常に安全運転を意識できるようにする。	45,360 円

4	食器乾燥機購入事業 (宇多津小学校)	給食後の歯磨きの歯ブラシやコップを塗れたまま袋に入れている学級があり衛生上問題があるので食器乾燥機を購入したい。	149,040 円
5	自転車に安全に乗るための自転車用交通安全シートの作成・配布事業 (宇多津北小学校)	3 年生以上の児童に、自転車の左側通行の徹底や交差点を渡るときの注意等をわかりやすくデザインしたゴム製シートを作成し、自転車に装着することで、常に安全運転を意識できるようにする。	64,800 円
6	鼓笛隊レニヤード購入事業 (宇多津北小学校)	ユニフォームは平成 3 年の開校当時からのもを現在も着用しており、レニヤードの老朽化が著しいので、少しずつ購入する。	304,398 円
7	「困っている人がいたら助ける未来を担う」講演会開催事業 (宇多津北小学校)	香川大学の酒井先生をお呼びして講演会を開催する。児童たちに、未来の創り手となり「夢を持って生きる」を日々実践してもらう。	20,000 円
8	交通安全標語下敷き作成事業 (宇多津北小学校)	交通安全についての意識の高揚を目指し、楽しみながら基礎的な交通安全に関する知識を身に付けさせる。	17,712 円
9	歌う道徳講師「大野靖之」さん講演会開催事業 (宇多津中学校)	様々な分野で成功したり、頑張っている人の話を聞かせることにより、中学生に夢や希望を持ってもらい、人権感覚を身に付けてもらう。	300,000 円
10	ボランティア銀行事業 (社会福祉協議会)	小・中学生が地域のボランティア活動に参加することによって、地域とのつながりが強くなり、ボランティア活動を通じて思いやりの気持ちを育む。	934,606 円
平成 30 年度プロジェクト募金助成合計額			1,893,916 円